

授業科目名	開講 年次	開講 学期	講義 種類	単位数	担当教員名
保育内容総論	1	後期	演習	1	呉屋 奈都子
<p>○授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達及び幼少期の体験に応じた「環境」 の内容や構造を理解したうえで、トータルバランスで教育・保育を展開していくための知識、技能、 判断力を身に付ける。 ・地球人として、季節の大切さや自然環境の変化を生かした教育・保育の実践を通して、 人権を尊び、乳幼児の心的理解や行動等、法律を熟読理解し、今の時代に対応するべき考えを構築する。 ・「環境」 を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、バランスの良い教育・保育計画に発展することができる。 					
<p>○授業の概要</p> <p>子どもの発達には、自然と人との共生、自然環境はとても重要であり大きな影響を与える。今の時代だからこそ、このような自然環境に対して、自然物・廃材を利用した好奇心の芽生えを意識した指導案のヒントを共有しそれらを自分自身の暮らし方と結び付けることのできる力を養う、領域 「環境」 についての基礎と実際について概説する。</p>					
<p>○授業計画</p> <p>第1回：【事前学修】：保育所保育指針・幼稚園教育要領解説について、環境について熟読する。 授業概要の説明、子どもと環境、保育における「環境」の位置付けについて理解する。 【事後学修】：幼児教育の基本を確認し、ノートにまとめ理解する。</p> <p>第2回：【事前学修】：ニュース等から現代の環境の変化と、乳幼児期の遊び方の変化や世界の子どもたちを取り巻く環境について考察し、こどもの最善の利益の意味について考察する。 世界の子どもたちのおかれている環境と問題を理解し、我が国の現状や自らの生活を振り返り、自分ができることを考察し発表する。 【事後学修】：どのようにしたら、子どもの最善の利益を守れるかを考えノートにまとめる。</p> <p>第3回：【事前学修】：日本の子どもたちの置かれている現状を理解し、同時に保護者の心情についても考える。 日本の子どもたちのおかれている保育環境特に「言葉」の保育実践の意味を理解するとともに、今後の「非認知」的な心を育む、自己と社会性について具体的にグループで議論し合い、意見をまとめて発表する。 【事後学修】：自分自身の幼児期の経験を踏まえて、大切だと感じていた環境をノートにまとめ提出する。</p> <p>第4回：【事前学修】：幼児期における思考の発達を踏まえた思考力を育む保育を理解するために熟読する 子どもの学ぶ力、好奇心・探究心を育む環境構成や保育方法を具体的に理解する。</p>					

【事後学修】：幼児期における思考の発達を踏まえた保育について考察する。

第5回：【事前学修】：自らの戸外遊びの原体験を振り返り、保育者の役割を具体的にノートにあげて持参する

発達からみる保育のポイント、人的環境と物的環境の在り方を考察し、園内環境の設定における保育者の役割について理解する。

【事後学修】：日本の伝統遊びを調べ、その自らの遊び経験をまとめてノートを持参する。

第6回：【事前学修】：自然と行事との関連性とその意味について調べ、ノートを持参する。

行事の意味を掘り下げ、身近な生活の中に潜む、強いてしまいがちな不適切保育について、園内の行事、地域での行事について考察し、外国籍や宗教への配慮の必要性をも、現在の課題についてグループで話し合い、その原因を探り考察する。

事後指導：現代社会の地域での行事の役割について、今後の具体的提言をノートにまとめる。

第7回：【事前学修】：遊びと環境・好奇心・探究心が育まれた経験を具体的にノートにあげて持参する。

自然物砂・石・泥を利用した遊びに関わる保育環境の意義を理解する。その際の見守りの中での言葉かけの意味について、子どもの権利への視点から考察する。

【事後学修】：遊び込む姿や様子から、何を保育者として着眼できたか、ノートにまとめる。

第8回：【事前学修】：四季の植物・歌について考察し発表を準備する。

四季の植物を理解しながら、その歌の歌詞を味わい楽しみ、クラスでの発表を聞き、心が動いた瞬間の気づきを味わい、押し花体験をして探究する。植物栽培を経験し、自然の恵みに感謝しながら、給食の産地や、地域の特産物や地産地消について探究し、食育を理解する。その際、日本地図・世界地図掲示環境。

事後指導：四季の草花を図鑑等々で調べて、畦道の草花をスケッチして植物の繊細な素晴らしさを知る。給食時の不適切保育について、調べ理解する。

第9回：【事前学修】：身近な「命」動物について調べ、その生態系を理解し発表準備する。

動物飼育や関わりの中で、その「命」の温もりを感じて、人間以外の動物と共にこの地球で共存しながら生きている意味と、小さな命をお世話すること、触れ合うことで優しく関わる心が育まれる意味を理解する。「命」について、不適切な言葉かけについて、積極的な予防への意識の芽生えについて考察する。

【事後学修】：動物園の意味や保護活動や愛護センターについて調べて、現在の課題をノートにまとめ発表準備する。

第10回：【事前学修】：事後学修を復習して、更にその内容を探究する。

身近な動物の生態系や、保護活動や動物園の現状や愛護センターの現状を発表で知ること、
「命」への向き合い方について、世界に一つしかない「命」をどの様に大切に関わることが大切なのかの

理解を深める。「命」について、人・生き物に対して、不適切な言葉かけの予防に繋がる組織の意味を探る。

【事後学修】：ペットに迎え入れについて、社会課題としての視点で考察する。

第1 1回：【事前学修】：身の回りの素材を生かして、遊び道具の制作を考えてノートに試作品を描き、遊び方もまとめる。

廃材や自然物（葉や木、実、石、砂）を利用したSDGS指導案を実際制作して、自ら遊び体験して気持ちの変化を体感する。自然への畏敬の念と、日々の保育環境の中での適切な教育・保育の共通理解の重要性を考察する。

【事後学修】：体感したことの心の動きと課題について、探求して記録する。

第1 2回：【事前学修】：具体的な試作品を完成させて、その遊び方の発表準備をする。

具体的に試作したSDGSの遊び道具を、発表し合い気づきや援助の声掛けや、部分・責任実習のねらいを探究する。リスクマネジメントの視点から、不適切な保育を生まない環境づくりを考察する。

【事後学修】：自分以外の発想力や創造力、想像力を知ること、更なるSDGS指導案を作成する

1 3回：【事前学修】：海外の保育について調べ学習して、ノートにまとめ理解する。

ドイツやフィンランドの保育について紹介し、日本の保育との違いを知り、人権を尊ぶ視点から課題を探究する。自然との共生の中で、戸外遊びの中でのクライシスマネジメントの視点を考察する

【事後学修】：自然と人の共生による環境を生かした保育の意味を考える。

第1 4回：【事前学修】：自然と人との共生を着眼とした、地球人としての指導案の作成について探しノートにまとめ、発表準備をする。

動植物等、廃材に関心を常にもち、暮らし方の創意工夫をする視点で、幼児教育実践として、乳幼児期から発達の観点を踏まえて、環境のもつ意味や子どもと環境のかかわりについて考え、戸外遊びの中から、自然への好奇心や探究心が培われる環境と指導案を探究する。また、日々の環境の中で不適切保育が起こる背景を鑑みて、発生防止について具体的に考察する。

【事後学修】：地球人として、限りある資源についてSDGSにも思いを馳せながら、自然物に触れ合う環境と共に素材選びや教材への材質へも拘りをもつことが望ましい意味について発表準備をする。

第1 5回：【事前学修】：【事後学修】した意味を探究し、ノートまとめをする。

【事後学修】の発表を聞き、自分自身の暮らし方への課題を見出し、今後の指導案への自然と人の共生できる地球に優しい環境（人・もの）の生命領域の指導方法を習得する。また、「命」を最優先する中から、不適切な教育・保育が生まれない組織風土づくりを考察する。

【事後学修】：環境としての保育者の役割について、グループでの話し合いをしたことをノートまとめ、環境構成の安全性についても考察する。

定期試験（定期試験は講義内に含まない）

○ テキスト

「言葉・非認知的な心・学ぶ力」、○参考書・参考資料等

○参考書・参考資料等

教員が作成した資料「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

学生に対する評価

試験 60% 授業態度(意欲) 15% 発表力 15% 提出物(授業ノート含む) 10%